

# 南薩地域の農林水産業の分野で活躍されて

## 地域共同で農地・水等の資源を守る<sup>みどり</sup>水土里サークル活動に取り組中！

【恋島活動組織 書記・会計 宮園 真由美さん 南さつま市】

私たち恋島活動組織は、58人の個人と3団体で構成され、南さつま市大浦干拓土地改良区内の田99.4ha・畑地0.8ha・水路18,700m・農道9,400mについて、平成19年度から現在まで水土里サークル活動を行っています。

活動内容としては、農用地・水路・農道の草刈り、農道側溝・用排水路の泥上げ、景観形成として水路沿いの花植、未舗装農道の舗装、水路の新設等です。

今後とも、より一層、地域共同で大浦干拓地区内の地域資源保全活動に努めていきたいと考えています。

※「水土里サークル活動」とは、鹿児島県における多面的機能支払交付金を活用した取組の愛称です。



水路の土砂上げ状況



書記・会計として活躍している宮園真由美さん



水路沿いの花植活動



水路の草刈り状況

## 水を守り、水で豊かに！

【南薩土地改良区(水土里ネット南薩) 利田 大喜さん 南九州市】

私たち南薩土地改良区は、南薩畑地かんがい(畑かん)事業によって整備された施設を昭和56年から維持管理し、約6,000haの広大な農地に池田湖を經由して送水しています。

指宿市、南九州市、枕崎市にかかる本地域は、この畑地かんがい事業により野菜や茶を中心とした営農が定着し、私たちの仕事が地域の振興に大きな役割を果たしているものと日々感じています。

最近では施設の老朽化に伴う漏水事故が多発しており、その改修においては農家の皆さんの営農に支障をきたさないよう迅速な対応を心掛けています。

また、給水栓の不具合、ガス管の腐食も進んでおり、平成25年度からは施設の更新事業を進め、地区内約30,000個の給水栓を10年間で更新していく計画です。

これからも農家の皆様の営農に直結する水と施設を守りながら、地域づくりに携わっていきたくと考えています。



小学生畑かん施設体験学習



日常業務の様子



施設点検状況



漏水事故発生状況

# いる住民・団体の皆さん

## 人と環境にやさしい農業技術「IPM」で安心・安全なおくらを生産！

【いぶすき農協指宿okra部会エコファーマーグループ代表 澤山 岩重さん 指宿市】

私たち「いぶすき農協指宿okra部会エコファーマーグループ」は指宿市のokra生産者26戸で組織されており、全員がエコファーマー<sup>※1</sup>に認定され、「かごしまの農林水産物認証制度(K-GAP)」<sup>※2</sup>を取得しています。

平成27年度からは消費者の「できるだけ安全な物を食べたい」というニーズに応えるためIPMにも取り組み始めました。IPMとは、総合的病害虫・雑草管理を表す英語の略称ですが、私たちは、益虫(天敵)などを活用して害虫を退治し、化学合成農薬の使用を減らした農業生産技術に取り組んでいます。

実際、テントウムシがまたたく間にアブラムシを食べ尽くして、私たち自身も改めてその効果を実感しています。

IPMは消費者だけでなく、生態系や環境にもやさしい技術です。持続可能な農業として注目されており、私たち生産者もIPMを駆使することで、さらに安心・安全なおくらを消費者の皆さんに届けられると自信を持っています。

※1 環境にやさしい農業を行う生産者を応援する制度で県知事が認定

※2 県が策定した基準に基づき、生産者が行う生産工程管理(GAP)の取組を外部機関が審査・認証する鹿児島県独自の制度



安心・安全なおくらを届けます



IPM検討会の様子



アブラムシを退治するテントウムシ

## 南九州最大の輪ギク産地で「周年ギク研究会」を通じて技術等を研鑽！

【大塚花き生産者協会 会長 今給黎 明さん 枕崎市】

私たちの大塚花き団地は、南九州有数の花き産地として、約32haのハウスで、輪ギク、スプレーギク、ユリなどを栽培しています。

団地では、生産者約30名で「大塚花き生産者協会」を設立し、平成6年にはその中に将来を担う若き生産者からなる「周年ギク研究会」を組織。法人化・雇用等に関する経営課題や、省力化技術・新しい育苗体系等の技術課題の解決に取り組み、個々の経営能力の向上を目的として活動しています。

その内容は、

- (1) 毎月第2火曜日に定例会を開催し、昼食を取りながら、課題解決・方策について検討を行い、その後各研究会員のほ場を回り、個々の技術や品種の特性等について互いに意見や情報の交換をしています。
- (2) 課題は、経営面から技術面と様々あり、関係機関や地元企業も参加し、1年かけて解決に向けた協議を続けています。
- (3) 視察研修として年1回、先進地や市場などを訪問し、事例の収集や産地との連携を図っています。

このようにこの会は生産者だけではなく、関係機関や地元企業も参加して、現場第一主義で最先端の技術等実践的研修を取り入れながら経営や技術などの研鑽に努めています。



現地検討会



定例会

## 南薩地域から、<sup>えだもの</sup>枝物(シキミ・サカキ・ヒサカキ)を全国へ！

【南薩枝物生産組合長 西鶴 園弘さん 南さつま市】

皆さん、「枝物」をご存じですか？

「枝物」とは神前、仏前に供えるシキミ・サカキ・ヒサカキなどの<sup>はもの</sup>葉物のことです。特にシキミについては、関西方面を中心に需要が多く、温暖でこれらの枝物栽培に適している南薩地域では、近年生産が盛んになってきています。

私たちは、平成26年4月に、南さつま市・南九州市の生産者で地域全体で枝物栽培を盛り上げていこうという目的のもと「南薩枝物生産組合」を設立しました。

組合員の中には、県の枝物生産者養成講座の講師を務めている末永氏や、30代の若い生産者もあり、大変意欲的に取り組んでいることから、これからますます生産が盛んになっていくものと考えています。

「枝物」の出荷先としては、現在は需要が多い関西方面が中心ですが、全国的に枝物の需要が高まってきていることから、南薩地域全体で枝物生産の取組をすすめ、南薩の枝物を全国各地へと広げていきたいと思えます。

これから枝物生産に取り組みたいという方は、私たちと一緒にやってみませんか？



出荷用シキミのくくり  
(3~4本を輪ゴム等でくくった状態)



南薩枝物生産組合の組合員



シキミの品質検討



生産地の状況

## 地域で獲れた魚を使った新たな特産品づくりに奮闘中！

【坊津蔵 村主 賢治さん 南さつま市】

私は、兵庫県の水産加工会社に勤めていましたが、もっと海に関わった仕事に携わりたいとの思いで退職する決断をし、鹿児島島にやって来ました。

退職後、トカラに移り住み、漁業に奮闘しながら会社勤務時代から関心のあった魚醬づくりを行っていましたが、燻製づくりに魅せられ、坊津に移り住みました。

南薩には、美味しい魚なのに、まだその価値が認知されていない魚介類が豊富にあるので、それらを多くの人に知ってもらい、価値を少しでも高めたいという思いを抱きながら燻製づくりに励んでいます。

また、地魚を熟成させて製造した魚醬は、おかげさまで南薩管内の物産館などでも販売させてもらってます。鹿児島島ではなじみの薄い魚醬ですが、最近、少しずつ認知されるようになりました。

しかしながら、こだわりを持ちながら時間をかけて一人で作っていますので、大量生産とはいかないところです。

坊津の方々には見ず知らずの私を優しく受け入れていただきましたので、少しでも恩返しできればと思い、特に地元で獲れる魚の販売促進に力を入れております。

坊津では、一本釣りで大型のサバを漁獲し鮮度の保持にこだわり「双剣鯖」の名称でブランド化しています。

この「双剣鯖」を会社時代の知人を頼って東京に出荷したり、先般はマルヤガーデンズに持ち込んで売り込むなど、販売促進の手伝いをさせてもらっています。

今後も地元の魅力ある魚介類の利活用や販売を通して、当地の魅力を発信していきたいと思っています。



地魚で作った燻製と魚醬



マルヤガーデンズでの「双剣鯖」販売